

研究名：当センターにおける産褥早期リハビリテーション医療を行った褥婦の特徴

1. 研究の目的

産褥期には、医療的介入が必要なトラブルや子宮の復古現象に伴う後陣痛以外にも、目に見えない身体の違和感や不快症状を抱えて過ごされている方が多いにもかかわらず、これまでは出産に伴うものは仕方ないこととして見過ごされてきました。しかしこのような身体の違和感や不快症状は生活の質を低下させるだけでなく、不安や自信低下につながる可能性があり、産後の早期から身体のケアに取り組むことは産褥期以降にも続く女性の健康増進に繋がるものと考えます。当センターでは2024年7月より産後入院中から産科医・助産師・看護師らと連携し産褥早期のリハビリテーション医療を行っています。当センター産科病棟に入院し、産後のリハビリテーション処方であった患者様の特徴や診療内容の詳細を検討し、その中で見えてくる課題を明らかにすることで、産褥早期の褥婦に対するリハビリテーションの更なる充実につながると考え、研究を行うこととしました。

2. 研究の方法

- ① 研究対象：当センターで出産後に産科病棟に入院し、2024年7月1日から2024年10月31日までの入院中にリハビリテーション処方であった褥婦様
- ② 研究期間：倫理審査委員会承認後～2025年11月30日
- ③ 研究方法：カルテ情報から後方視的に調査する観察研究

3. 研究に用いる情報の種類

年齢、既往歴・合併症、妊娠様式、出産回数、分娩様式、分娩時損傷、分娩時間、児体重、リハビリテーション介入開始時期、依頼内容、訓練内容、実施回数、マイナートラブルの内容 等

※ 情報の利用開始日：2025年2月1日

※ 患者さんの氏名など、本人を特定出来る一切の個人情報
は調査対象ではなく、
個人情報は保守されます。

4. 情報の公表

研究内容は学会発表や学術論文の形で公表する予定です。

5. 研究実施機関

国立成育医療研究センター

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、**2025年3月末までに**下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

○照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

国立成育医療研究センター リハビリテーション科 竹厚 和美
住所：〒157-8535 東京都世田谷区大蔵 2-10-1
電話：03-3416-0181（内線：8056）

○研究責任者：

国立成育医療研究センター リハビリテーション科 竹厚 和美